

日吉台地下壕保存の会

会 報

第21号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

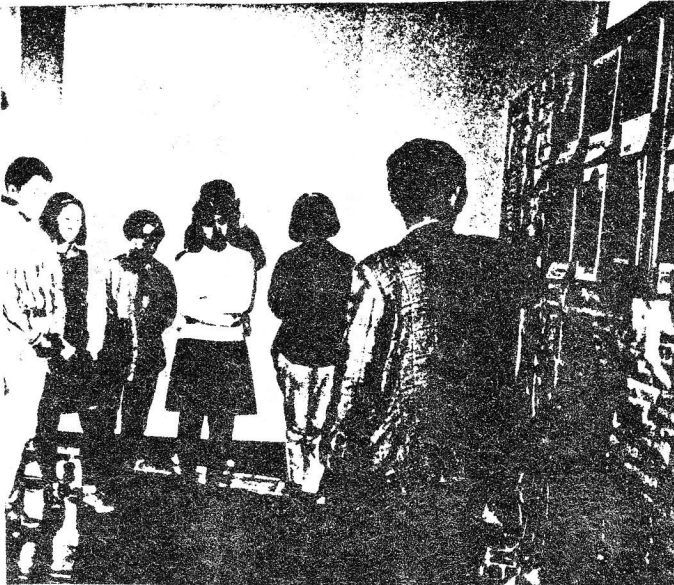
223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振込(口座番号)横浜2-62997

(加入者名)日吉台地下壕保存の会



「平和のための戦争展」で、展示のパネルを見ながら
熱心に話に耳を傾ける若者たち

目次	頁
○「平和のための戦争展」 を振り返って	1
○第7回幹事会報告	2
○第8回幹事会報告	2
○第9回幹事会報告	2
○10月22日実施、日吉台 地下壕見学感想文	3
○11月3日実施、日吉台 地下壕見学感想文	4
○お願い	6
○編集後記	6

「平和のための戦争展」を振り返って

事務局長 寺田貞治

幹事の一人から昨年六月に、八月一五日前後に地下壕展を開いたらという意見が出ましたが、時間的に間に合わないし、いろいろなイベントが各地で行われているので、この企画は取りやめ、七月の幹事会で一二月八日前後に登戸研究所を調査しているグループと共催で「平和のための戦争展」を開催することになり、第一回会合を九月にもって、準備を始めました。そして、一二月一二・一三日に川崎市平和館で「私の街から戦争が見える」というテーマで戦争展が開かれました。

川崎市教育委員会の共催、川崎市の後援を得て、戦争展は成功裡に終わりました。高校生による討論集会、シンポジウムも会議室一杯の参加者を得て、活発に意見交換が行われました。賛同者も個人一二二名、団体一三グループの申し出があり、賛同金も一三万余円ほど集まりました。厚く御礼申し上げます。実行委員会の反省会の時、来年度以降もこのイベントを毎年続けてやろうという提案が出され、了承されました。

今後とも宜しくご支援、ご協力の程をお願い申し上げます。

第七回松井車争△△出版出口
日時 一月一日(水)
午後五時三〇分より
場所 藤山記念館中会議室
報告事項
事務局長より

一、会員数 四七九名
(一月一日現在)

二、一月二日：慶應大学
白井ゼミの学生、約一三
名地下壕見学。

三、一月三日：神奈川県高
等学校教科研究会社会科
部会の見学会、
二九名参加。

四、一月五日：第三回イベ
ント「平和のための戦争
展」打ち合せ。

五、一月一日：戦争展ブ
レイイベントとして登戸研
究所見学予定。

六、一月二日：戦争展ブ
レイイベントとして日吉台
地下壕見学会予定。

七、一月二八日：戦争展ブ
レイイベントとして日吉台
地下壕見学会予定。

八、一月三日：自治労横浜

支部の地下壕見学会予定。
九、一月二二・二三・二四：イ
ベント「平和のための戦
争展」開催予定。

議事

一、パンフレットの発行
二、会報第一九号・二〇号
(一月一日に発行・郵送)

三、イベント計画

四、地下壕見学会、登戸研
究所見学会の受付など

第八回松井車争△△出版出口
日時 一月三日(水)
午後六時

場所 ブルベア

内容 新年会を兼ねて戦争展
の反省と今後の活動について
話し合った。

第九回松井車争△△出版出口

日時 二月一八日(木)
午後五時三〇分より

場所 日吉地区センター和室

報告事項

事務局長より

一、会員数 四九三名

(二月一八日現在)

二、二月二三日：旧海軍蟹
ヶ谷通信所と、その地下
壕の見学。

三、一月四日：戦争展合同
反省会。

四、二月一七日：人権啓発研
究集会地下壕見学会。
二〇名参加。

五、二月二〇日：中原平和人
権尊重学級の「地域にみ
る戦争の爪跡」の講座で
地下壕見学の予定。
(二五名参加)

六、二月二二日：国際交流で
来日韓国学生の地下壕の
見学予定。(一八名参加)

七、三月四日：中原ロータリ
ークラブ主催で、地下壕
の話をする予定。

八、三月二〇日：追浜高校地
学部学生の地下壕見学
予定。

議事

一、戦争展のまとめと反省
短期間にしてはよくでき
た。登戸研究所の調査の
グループと合同でやった
のはよかった。地下壕の

模型はよかった。写真は
パネルにするとか、広場
の使い方をもっと考える
とよい。もっと早くから
準備するとよい。

二、一九九三年度の総会の準
備について

①一九九二年度の活動のま
まとめと反省

○県や市に地下壕保存の要
望書を出した。

○松代地下壕の見学会を開
催した。

○戦争展を開いた。

②一九九三年度の活動方針
案の作成

○保存運動に重点をおいて
活動する。必要であれば
署名運動も行う。そのた
めに見学者などの名簿を
整理しておく。

○イベントの準備をこの春
からやる。希望者を募る。

○事務局の中に書記(亀岡)
・会計(白鶴)・イベン
ト係・見学会案内(寺田、
谷藤)係を設け、分担し
て活動する。

○総会を四月一七日(土)に開催する。

三、会報第二一号の発行

原稿集め、ワープロ打ち、レイアウト、印刷、発送事務など、幹事が仕事を分担して、発行する。

二一号については原稿一切を二月末とし、三月二〇日までに発行し郵送する。

四、パンフレットの発行

寺田・加賀谷で総会までに間に合うように発行する。

五、運営委員会

三月二四日(水)午後五時三〇分、日吉地区センター

一〇月二二日実施

日土ロム口地下一階塚

目元学 威感相心文

慶應大学白井ゼミ

●全体の構造は理になつてゐるし、中も思つた以上に大きく、機能的にできていると思つた。はじめめていて生活するには大変そうだが、涼しいので厳しい寒気や暑気はしのぎやすかつたのではない

だろうか。しかし、あんな地中で暗い場所で作業しなければならぬほど切迫した状況の中で、どんな思いで活動していたのだろうか。でもこれだけ戦略的にも地理的にも有力だった施設が残っていると

いうことに對し、それを保存しようとして活動している人々の努力ともども非常に感銘できることだ。日吉も含め神奈川に地下壕が多いということとは今回初めて知つたが、本土決戦に備えてのこの地の重要性というものが浮き彫りにされて興味深かつた。

●あの場所に、実際に司令部があり戦いに関する作戦が相談され、多くの人がそれぞれの部所で、それもあんな地下で働いていたと考えるだけで戦争は不気味なものだと思つた。当時は、もつときれいでドアやベットや机などがあり、生活感があつたのであろうか。太陽の光が少しもささず、コンクリートの壁が規則正しく続いている中、精神的にどん

な影響があつたか。きっと悪い影響があつたに違いないな

●さきに進むにつれて不安になつた。考えていたよりも複雑な形をしていると思つた。とにかく下は泥だらけで、歩くのに神経を使つた。また暗かつたせい

●先ず感じたことは、思つていたよりも造りが非常にしつかりとしていたことです。また規模の大きさにも大変驚きました。今回見学しただけでもかなりの距離、大きさを

たので驚きました。私は塾高時代から地下壕の存在は知つていて大変興味があつたのですが、中に入るといふ夢が今日実現して非常に嬉しく思っています。

●実際に入ってみるまではこんな大規模な地下施設があるなんて信じられなかつたし、キヤンパス内の「わけのわから

ない建造物」の多くが地下壕の関連物だつたのにも驚いた。しかし、その長さにはすごいと思つたが、大きさというか

一つ一つの部屋(だった所)は意外と狭くて、これが連合艦隊司令部かという感じがした。七〇〇人もの人たちが、

ここで作戦を練っている風景がなかなか実感できなかった。そして懐中電灯を消して真っ暗にしたときの何とも言われぬ恐怖感は、米軍が地下壕を封鎖しようとした心境が、納得できるくらい今も何かが出そうなのでした。

●地下壕を見学して一番驚いたことは、その大きさであつた。以前は地下壕といえば、洞穴程度であると思つていた。あれだけのものを当時あの期間で作つたことを考えれば、かなりしつかり作つてあるのではないか。地下壕内の土や泥はそのままでよいと思うが、ゴミや落書きは少しペイントして、地下壕を保存して欲しい。地理的にも地形的にも日

吉に連合艦隊司令部の地下壕が適していたということが、今日の講義と見学でよくわかった。

●あの真つ暗な地下壕の中で、当時の兵隊が作業していたかと思うと信じられなかった。戦争の異常さをかいまみたような気がした。僕らがほんのちよつと居ただけでもなんとなく息苦しくて嫌だったのだから、当時の兵隊は相当精神的に過酷な作業をしていたのだと思う。二度と戦争がないよう、そしてあの様な地下壕が作られないように祈りたい。●予想以上の広さと、近代的設備に驚きました。戦争自体よいことではないですが、日本の当時の上部がそれなりの力をもっていたにもかかわらず世の流れというものを見過り、多くの犠牲者を出したことは残念でなりません。何か近年の湾岸戦争におけるイラクの地下基地を思い出して、何か悲しさを覚えます。この地下壕がさらに多くの人々の

理解を得て、後世に伝えていくのは重要なことだと思ひます。

●大変面白く見学させて頂きました。前に一度テレビで日吉台地下壕の特集をやっているのを見ましたが、テレビと実際にみるのでは全く違い、実物の迫力に圧倒されました。あれだけのものをわずかな期間に作ってしまうだけの、戦争というものの力の大きさに同時に驚かされました。書物などで読むよりも戦争というもの、自分の身近なものであると感じることができたように思います。

●日吉の地下壕はテレビで見えて、ある程度中の様子は知っていました。今回実際に入ってみてその広さに驚かされました。敵の目を欺くためか必要上仕方なかったためかわかりませんが、あれほどの距離を掘るには相当な数の朝鮮人が動員されたことは容易に想像がついた。また実際あの中で生活していたことはどうしても信じられず、戦争の厳しさを改めて痛感した。また自分の母校の地下壕に入れたことはとてもよい経験であり、このような機会を得ることができてとても嬉しく思いました。

●日吉の地下壕は塾高に通っていた頃から一度見たかと思っていたので、念願がかなったことが印象に残ってしまうのですが、あれだけのコンクリートを使い、土を掘って広い空間を作り上げてしまうとは、当時の人たちに感心しました。それに迷路のような複雑な造りは誰が考えたのか不思議です。歴史を感じられたよい経験になりました。

●戦時下に、あんな大きなものを機能的に作るのには凄く思ったが、しかし、あの場所で作っていたということから、敗戦の色がよくわかるような気がしました。一番驚いたのは、トンネル内がかなり過ごし易そうな感じがしたことでした。蛍光灯をつけたり、井戸を掘ったり、排気孔をつけることなどの工夫が凄く思いました。また、雨漏りの少ないことにも驚きました。戦争を最後の最後まで、あそこに引きこもって戦っていたことに驚きながらも、少しショックな気がしました。

一月三日実施
日土ロム口地下壕
目見学子感心相心文
神奈川県高等学校教科
研究会社会科部会

●私たちも厚木飛行場付属の高座工廠の地下工場の調査をすすめています。その意味で、大変有意義でした。今後ご指導と交流をお願いします。高座工廠については八千名の台湾少年工がおり、現在台湾にある彼らの組織、高座会と接触を保っています。市史の調査を通じて、地下壕は戦争遺跡としてぜひ保存し、後世に残したい。平和のための戦争史跡として。

●沖縄、松代は巡検しましたが、本日は横浜市内にも地下壕があり、それも大学内にあり、本日に驚きました。海軍の基地としての史跡はもとより、朝鮮人の強制連行としての歴史的意義を考えさせられました。この前、吉見百穴も見学してきましたので、今後の授業に取り入れていきたいと思ひました。県・市に働きかけ、生きた教材となるべく運動を広げていきたいと思ひました。大学当局はどんな考えであるかわかりませんが、

●この夏に座間にある地下壕を見学しましたが、それに比べコンクリートで固めてあり大規模なので驚きました。

地下壕の中に一部当時の設備を復元し、様子がわかるようになっていたらいいと思ひます。それが無理なら案内板などをつけたらどうか。

●個人的にはなかなか見学できないと聞いていましたので、今回の見学はとても嬉しく待ちどろしかったです。先生の

説明はとても興味を増すものでした。民衆の生活と裏腹に、軍費をこういう所に使っていたのかと考えました。勉強になりました。

地下壕の一般公開の場を増やせたらよいと思ひます。

●以前松代の地下壕を見学したことがあり、大変興味深くお話を聞きすることができました。これから、少しずつ学習を深めていきたいと思ひます。

地下壕については、説明板碑などを立てるとか、さらに一層学習会・講演会などを推進し、壕内の整備と保存を進められるとよい。

●横浜市にこのような重要な戦争遺物があるとは全く知らなかったのを見学できてよかった。具体的に戦争に触れることができ、先生の話もよかったです。地下壕は整備保存して公開して欲しい。

●本日は、この日吉台地下壕見学に興味深く参加させて頂きました。大切な遺産なので、

ぜひ保存・活用できたらよいと思ひます。

●今回で二度目ですが、分厚いコンクリートに包まれた地下壕の無機質的な冷たさ、薄気味悪さは、戦争や軍隊のもつ冷酷さや愚かさ、自己保身性みたいなものを感じさせられます。(自分は戦争を知らないのですが……)。

地下壕の保存について、ぜひ頑張つて頂いて、市などに整備して貰いたいのですが、余りオープンになりすぎて観光気分の人などが入って欲しくないと思ひます。(松代大本営跡などはそういう人もいると聞いています)。

●こんなに大きな、そして実際に使われたとは今回来て初めて知った。松代の壕を以前見たことがあったが、実際には使われなかった。こういう地下壕の時、朝鮮人強制連行の問題がいつもある。考えなければいけない問題が多い。戦争の施設がこんな所にあつたとは戦争はまだまだ知らな

いことが多いと思ひました。地下壕は保存して一般公開できるようにして欲しいと思ひました。

●戦争が人を狂わせてしまったことを雄弁に語り続けてくれる資料だと思ひます。資料館の開設、壕の整備、一部でよいから一般への公開をして欲しい。

●一〇年前、この近くに住んでいましたが、全く知りませんでした。あの敗戦の色濃くなった時期に、わずか数カ月であれだけの地下壕を作ったとは、全く驚きました。如何に沢山の強制労働が課せられたか、と思うとほんとうに気の毒、そして、その指揮官たちは国民が苦しい思いをしている中、自分だけの身の安全を考えていたのが実状です。国を守る、国民を守る軍隊とは全く嘘であった。その証拠を見せつけられた思いです。ぜひ保存して、これからの子供たちに語り継ぎたいと思ひます。市や国が積極的に保存

に取り組むように働きかけた
いですね。

●戦争と平和を最もよく理解
するために、低学年より見学
させたいと思う。

●異常なほどのエネルギーを
結集しての工事、当時参加さ
れた人の偉大さを知りました。
このエネルギーを平和に活用
していたら……。平和の有難
さに感謝します。地下壕は戦
争に対する戒めとして、今後
とも保存を希望します。

●コンクリートで丈夫に作ら
れていますのに驚いた。これ
だけの物を作る莫大な費用と
労力を考えると、何をかいわ
んやの気持ちである。ぜひ保
存していきたいものである。
市や国に強く働きかけていく
べきであろう。生きた平和教
育の最高の教材である。

●戦争に勝つためなら手段を
選ばず、短時間で当時として
は素晴らしいものを作ったと
思います。何か（目的は違ふ
のですが）現代の我々日本人
にも通じるものを暗闇の中で

感じました。地下壕を整備し
て広く一般に公開して欲しい。

●貴重な史跡、未来に残すべ
き財産だと感じた。資料が少
ないのは残念、残された時間
は少ないので、ぜひ聞き取り
調査をどんどん進めて欲しい。
啓発をもっとすすめて県民に
もアッピールを！ 県をも動
かすような運動になればよい。
慶應大学も保存していく方向
にさせるためには、行政への
働きかけと平行して大学への
働きかけを推進すべきだ！
市や県で史跡として保存する
のがよい。

●とにかく驚いた。戦争を行
う場合には、これぐらいの施
設があつて当然であろうが、
現実にもみせられると、その規
模の大きさを思い知らされた。
地下壕は少なくとも「観光」
目的のものにはすべきでない。
●生まれ育った所（新吉田町）
のすぐ近くに、これほど重大
な機能をもった司令部が存在
したことを一年前まで知らな
かった。しかもフリーピンに

は関心があり、レイテ作戦の
こともそれなりには知ってい
ましたが、ここが作戦司令部
だったことも知らなかった。
自分の歴史認識の浅さを痛感
させられました。

地下壕そのものの保存につ
いては、しかるべき方法は思
いつきませんが、地下壕を説
明したパンフレットの発行、
資料館（無理でしたら壕ので
きるだけ近くに地下壕を説明
した看板）の建設などできな
いものでしょうか。

お願い

会費未納の方々へ

一九九一年度、一九九二年度
の会費未納の方は、至急お送
り下さい。

会費は、年一〇〇〇円です。

郵便振込の口座番号は

横浜二六二九九七

加入者名は

日吉台地下壕保存の会

恒綱 崔木 後記

◆事務局長がカンボジア
に一二月二五日から一〇
日間行つてきて、帰って
きた途端に大流行の風邪
にかかり、会報を出すの
が遅くなりました。

◆地下壕見学会の感想文
が、たくさん寄せられ原
稿には苦労しませんでした。
た。会報についてのご意
見もどしどしお寄せ頂け
ればと思っています。

◆暮れにやったイベント
も、後で考えればいろい
ろ問題はありますが、一
応は成功したのではない
かと、ほっと胸をなで下
ろしています。

◆今年は、地下壕の保存
運動に力を入れたと思
っていますので、今年も
宜しくご支援ご協力をお
願ひします。

神奈川新聞

(19)

川崎

1992年(平成4年)12月12日 土曜日

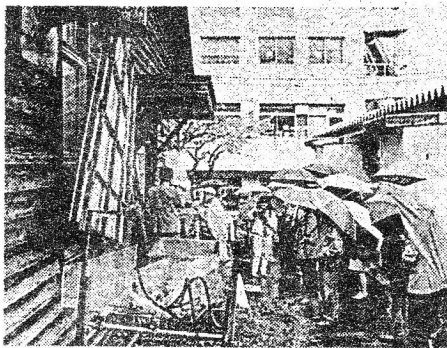


忘年会・新年会

●すきやきコース……¥6,500
 ●しゃぶしゃぶコース ¥7,000
 その他ご予算等、ご相談に応じます。

横浜市伊勢佐木町5 ☎251-0832~3

登戸研究所



戦時中は陸軍の作戦拠点だった

登戸研究所の調査活動を続けている「川崎市中原平和教育学級記録編集委員会(渡辺賢二代表)」と、日吉台地下壕の保存公開運動を進めている「日吉台地下壕保存の会」(寺田貞治事務局長)などが実施母体。合同企画は初めての試み。

登戸研究所(川崎市多摩区)は旧陸軍が化学兵器や偽札、風船爆弾などを

きょう、あす調査団が展示会

戦争の実態に迫る

中原区

はす(渡辺さん)という狙い。期間中は

日吉台地下壕



かつて連合艦隊司令部があった

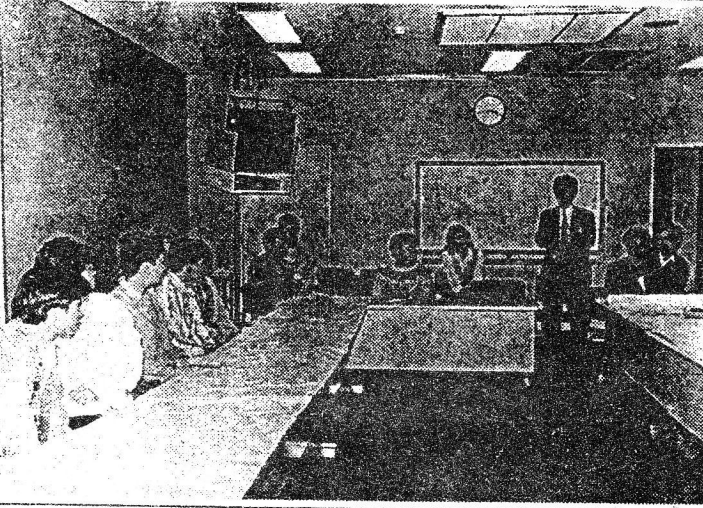
旧陸軍登戸研究所と旧海軍日吉台地下壕(こ)とされる極秘施設。一方、日吉台地下壕(横浜市港北区)は大戦末期、旧海軍連合艦隊司令部が置かれていた地下基地。

両施設とも依然ペールに覆われている部分が多いが、「陸軍が風船を飛ばし、海軍が地下に潜ったというおかしな事態を突き合わせてみることで、戦争の実態を浮き彫りにできるはず」と(渡辺さん)という狙い。

東京新聞

1992年(平成4年)12月13日(日曜日)

「これからの社会を担う自分たちが平和への関心を
広めなければ」などと真剣な論議が続出。中原区で



若者ら熱心に討論

川崎 平和のための戦争展

身近に残る戦争の傷跡から平和の意義を考えようと、川崎市中原区木月住吉町の川崎市平和館で十二日から「平和のための戦争展」が始まり、高校生ら若者四十人が戦争兵器の風船爆弾の一部を模造紙で作ったり、平和についての討論を行った。

戦争展は、多摩区の旧陸軍登戸研究所の調査などを行う「川崎市中原平和教育学級記録編集委員会」(渡辺賢一代表)と、横浜市港

北区の旧海軍日吉台地下壕(一三)の調査を進めている「日吉台地下壕保存の会」(寺田貞治事務局長)の共同企画。今も一部残る

二つの旧軍事施設の調査発表から、戦争の悲惨さを実感してもらい、反戦への輪を広げようという狙い。

展示室には二施設の中の様子を写したパネル、旧登戸研究所で戦争末期に作られていた風船爆弾、地下壕全貌の模型などが展示され、若者からお年寄りまで

が興味深くながめていた。

また、双方の会で活動している高校生が「身近にある戦争の事実を語り伝え、平和の大切さを若者から広げていこう」というアピールを採択した。

十二日は両施設の調査発表を中心にしたシンポジウムが開催されるほか、両施設と松代大本営のビデオ放映などが行われる。展示は同日まで。